

第2期幕別町スポーツ推進計画 (2024年度～2028年度)



令和6年3月
幕別町教育委員会

目次

第1章 計画の策定に当たって

- 1 計画策定の背景と趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 計画の策定体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 スポーツを取り巻く現状

- 1 町民のスポーツ意識の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 スポーツ関係団体の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3 スポーツ施設の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第3章 計画の体系

- 1 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 2 基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 3 SDGsを踏まえた計画の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 4 計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

第4章 基本計画

- 1 スポーツを「見る」「応援する」雰囲気を醸成しよう！・・・・・・・・ 16
- 2 スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！・・・・・・ 17
- 3 社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！・・・・・・・・・・ 19
- 4 子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！・・・・ 21
- 5 「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！・・・・・・・・・・・・・・ 23

第5章 計画の推進に当たって

- 1 計画の推進に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 2 主な関係団体の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

第1章 計画の策定に当たって

1 計画策定の背景と趣旨

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神のかん養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっています。

また、スポーツは、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するものでもあります。

国は、スポーツ立国を実現するために、平成23年に「スポーツ基本法」を制定し、スポーツに関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明確化しました。また翌年には「スポーツ基本計画」、平成29年には「第2期スポーツ基本計画」、令和4年には「第3期スポーツ基本計画」を策定し、国民、スポーツ団体、民間事業者、地方公共団体、国等が一体となって取り組むための指針を示しました。

町では、これまで町内からオリンピック選手やプロスポーツ選手（以下「アスリート」と総称します。）を多く輩出しており、町民一人ひとりが運動やスポーツを見る・する・楽しむ機会を創り、地域に根ざしたスポーツコミュニティの確立に向けて、「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」を展開してきました。

これまでの取組や国におけるスポーツ施策を踏まえ、今後も町民一人ひとりがスポーツに関わることで、スポーツが地域に根ざした文化として醸成するとともに、スポーツ交流人口の拡大や経済の活性化につながるよう、町・町民・地域・関係機関が一体となって、一步ずつ着実にスポーツ振興に取り組むため、「第1期幕別町スポーツ推進計画」を令和3年に策定し、スポーツのまち推進に取り組んできました。

一方、近年、新型コロナウイルス感染症拡大により、スポーツを実施する環境、機会が大きく変化してきました。「第2期幕別町スポーツ推進計画」は基本方針を踏襲しつつ、こうした社会変化や出来事を踏まえ策定します。

2 計画の位置付け

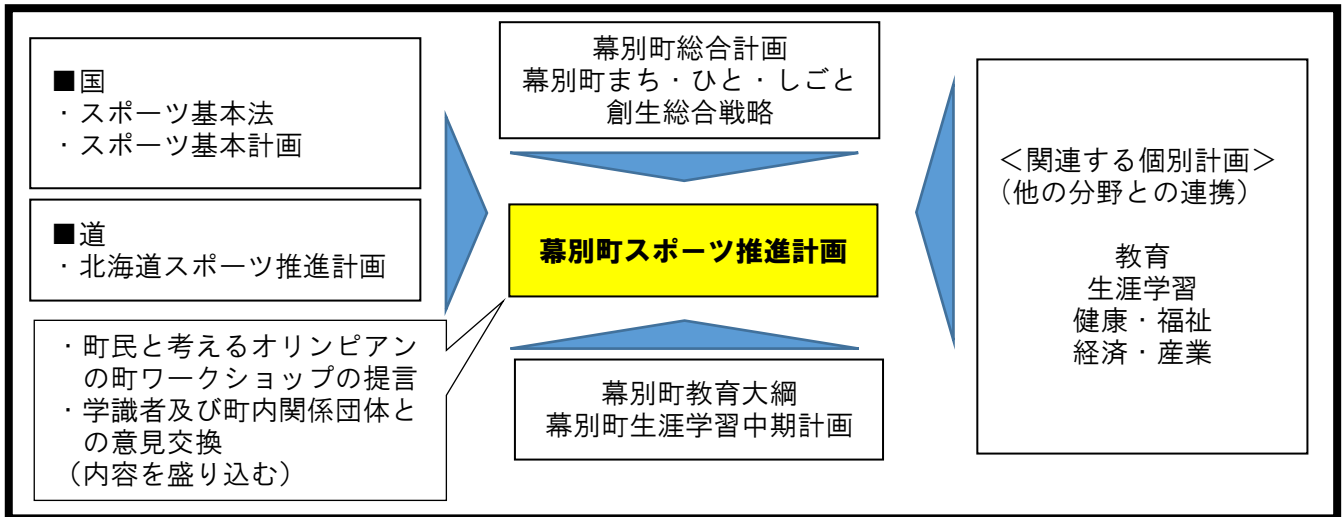
この計画は、スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定します。

また、計画策定に当たっては、国の「第3期スポーツ基本計画」及び「第3期北海道スポーツ推進計画」を参酌し、「第6期幕別町総合計画」の基本構想を基に、「幕別町教育大綱」の基本方針や「第7次幕別町生涯学習中期計画」などの個別計画との整合性を図ります。

3 計画の策定体制

第1期幕別町スポーツ推進計画は、無作為抽出の町民及び関係団体が参加した「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」から令和元年10月に提言があった内容や学識者及び町内関係団体との意見交換内容などを盛り込み、スポーツに関する施策を体系化した「スポーツ推進計画」を策定しました。

第2期幕別町スポーツ推進計画についても、町内関係団体との意見交換内容を盛り込み策定します。



4 計画の期間

この計画期間は、上位計画である「第7期幕別町生涯学習中期計画」に合わせ、2024年度（令和6年度）から2028年度（令和10年度）までの5年間とします。

また、この計画は、社会情勢等の変化に対し柔軟に対応するため、計画期間中であっても必要に応じ見直しを行います。

第2章 スポーツを取り巻く現状

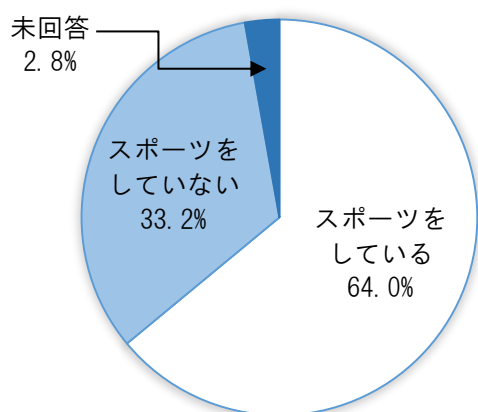
1 町民のスポーツ意識の状況

(1) 子どものスポーツの実施状況

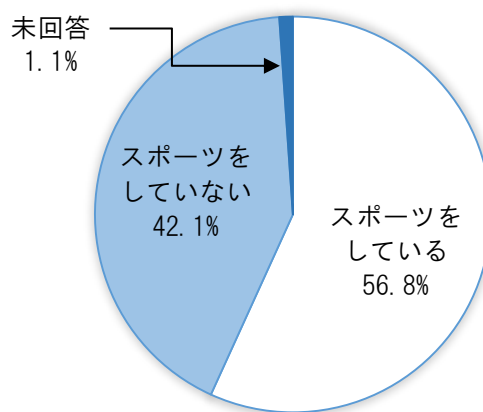
町教育委員会が9歳から17歳までの子どもを対象に行った「第7次幕別町生涯学習中期計画アンケート（2023）」で、子どもがスポーツをしている人の割合は56.8%であります。スポーツをしていない人の割合は42.1%となっています。スポーツをしていない人の理由は、「スポーツに興味がない」、「時間がない」、「お金がかかる」と回答が多い一方で、スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度は「やってみたい」または「どちらかというやってみたい」と回答している方が42.9%となっています。

■ スポーツをしている人の割合

○第1期

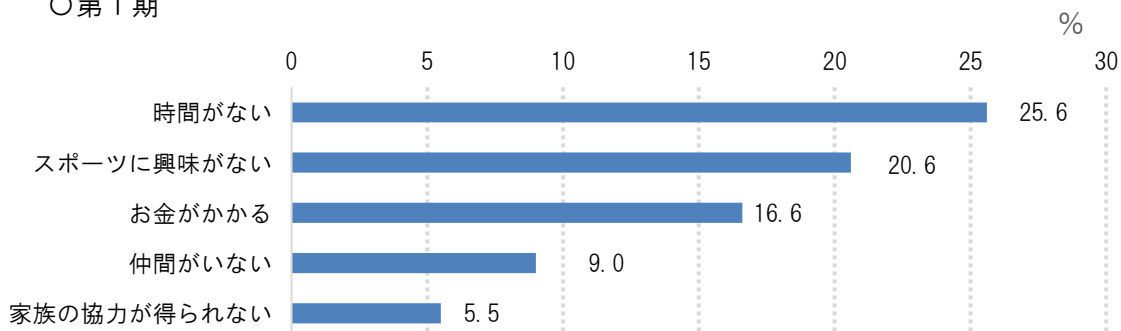


○第2期

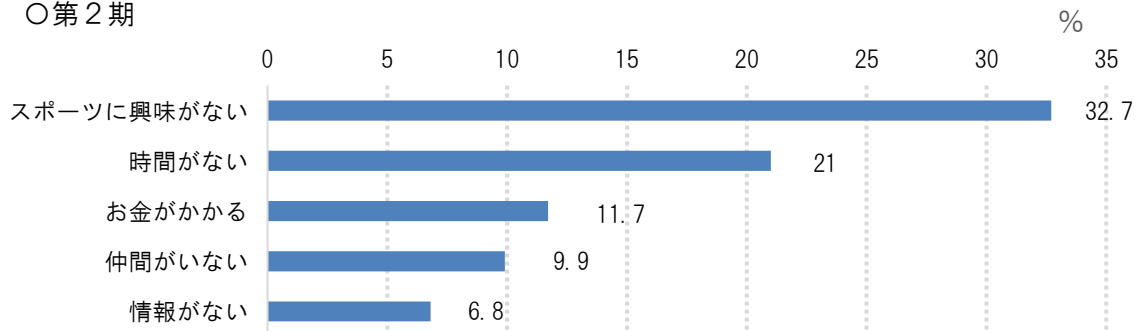


■ スポーツをしていない理由（上位5つまで）

○第1期

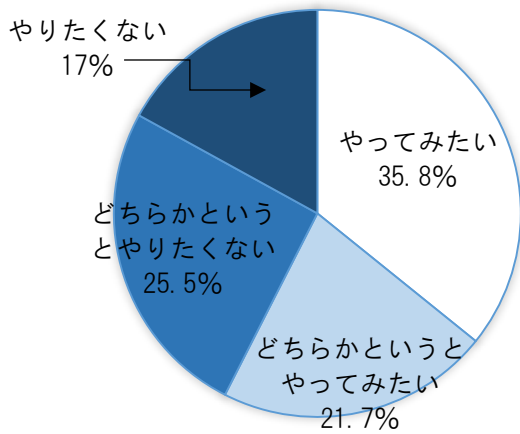


○第2期

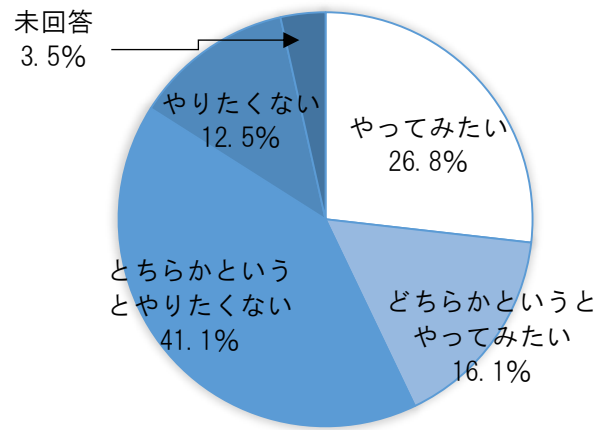


■ スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度

○第1期



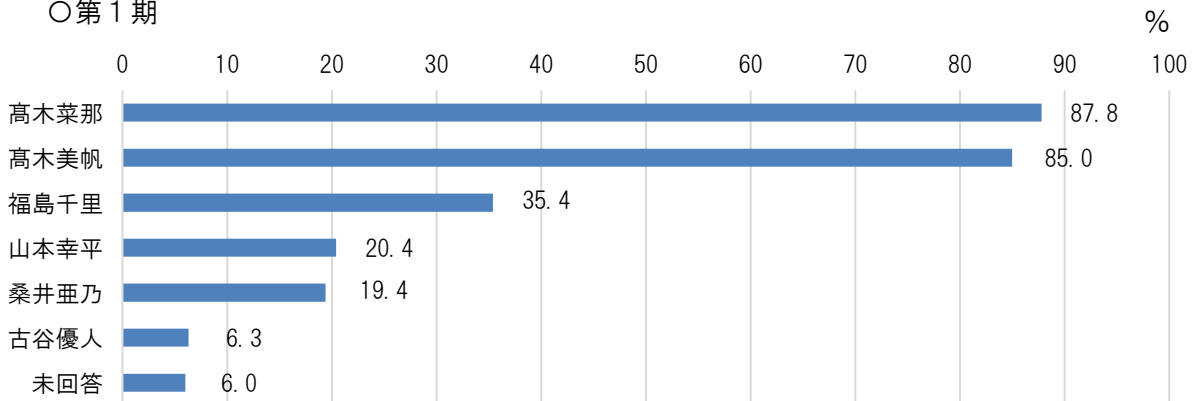
○第2期



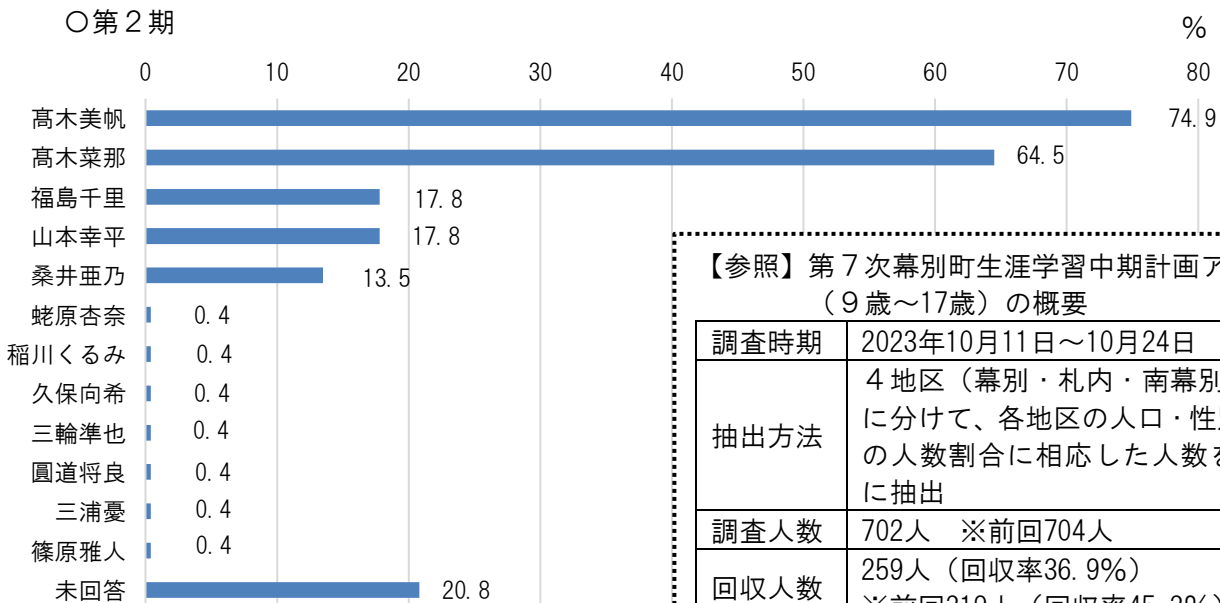
また、子どもが知っている世界で活躍している町内出身のアスリートは、オリンピックで金メダルを獲得した高木菜那選手や高木美帆選手が60%以上となっていますが、他の選手は知っている人が少ない状況となっています。

■ 子どもが知っている世界で活躍している町内出身のアスリート

○第1期



○第2期



【参照】第7次幕別町生涯学習中期計画アンケート（9歳～17歳）の概要

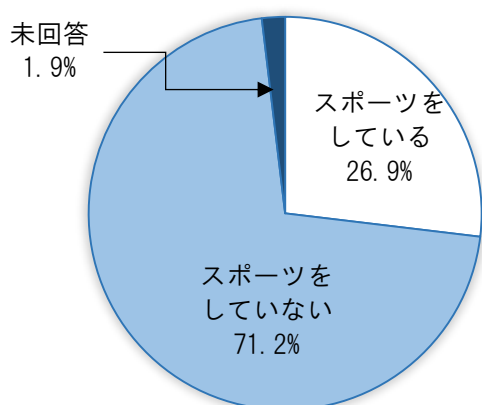
調査時期	2023年10月11日～10月24日
抽出方法	4地区（幕別・札内・南幕別・忠類）に分けて、各地区の人口・性別・年代の人数割合に相応した人数を無作為に抽出
調査人数	702人 ※前回704人
回収人数	259人（回収率36.9%） ※前回319人（回収率45.3%）

(2) 成人のスポーツの実施状況

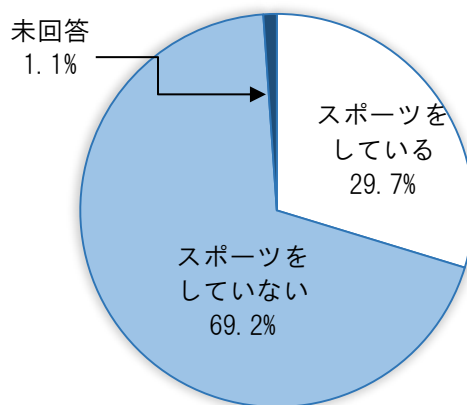
スポーツ庁が行った「スポーツの実施状況等に関する世論調査（2022）」によると、スポーツをしている人の割合は全国で52.3%であります。町教育委員会が18歳以上の方を対象に行った「第7次幕別町生涯学習中期計画アンケート（2023）」で、スポーツをしている人の割合は29.7%であり、全国の約半数の割合となっています。スポーツをしていない人の理由は、「時間がない」、「スポーツに興味がない」、「仲間がない」と回答が多い一方で、スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度は、「やってみたい」または「どちらかというやってみたい」と回答している方が37.9%となっています。

■ スポーツをしている人の割合

○第1期

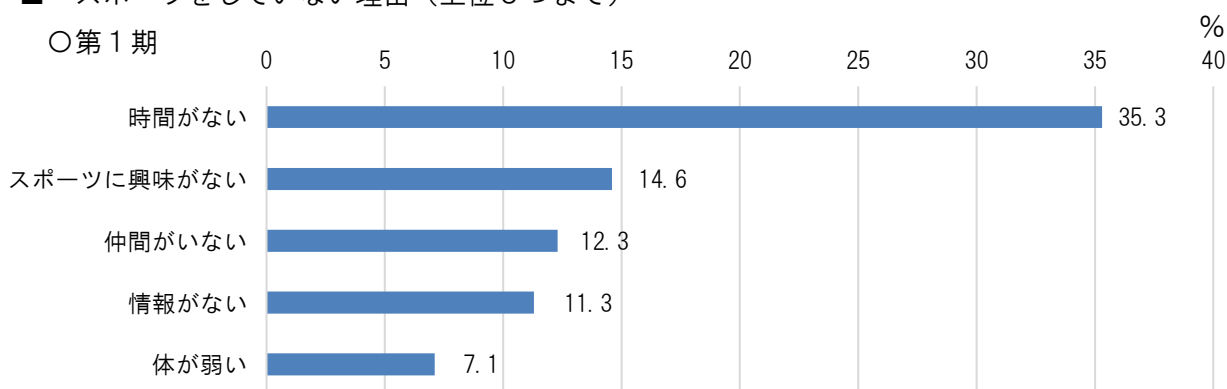


○第2期

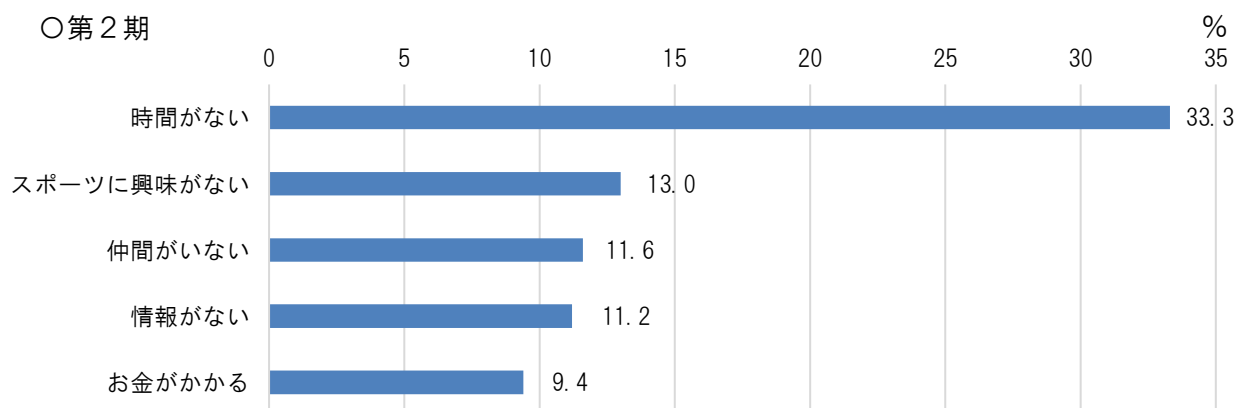


■ スポーツをしていない理由（上位5つまで）

○第1期

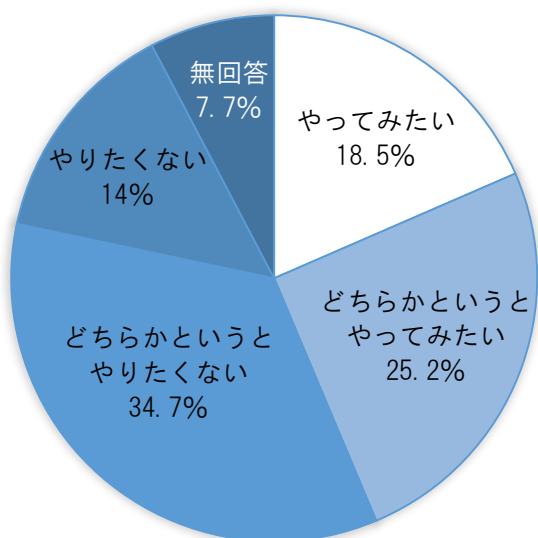


○第2期

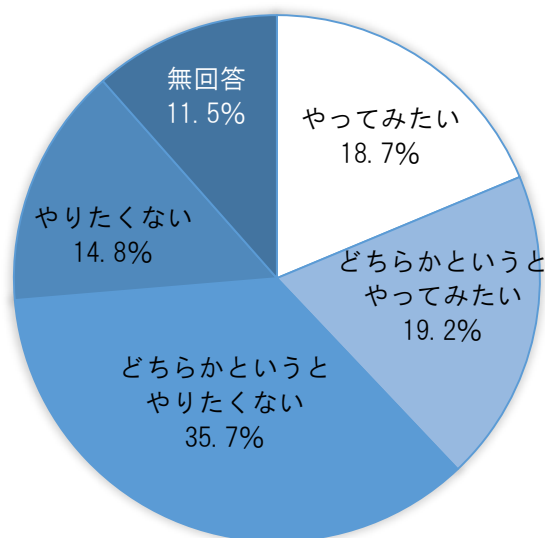


■ スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度

○第1期

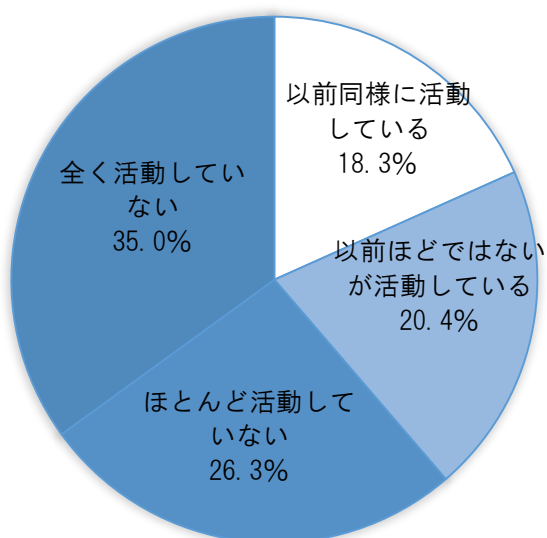


○第2期



コロナウイルス感染症が拡大する以前のように活動ができている人の割合は、「以前同様に活動している」または「以前ほどではないが活動している」と回答している方が38.7%となっていますが、「ほとんど活動していない」または「全く活動していない」と回答している方が61.3%となっており、活動していない理由として、「まだ感染の不安がある」、「外出が億劫になった」、「外に出て活動しなくても自分自身で行うようになった」と回答されています。

■ コロナウイルス感染症が拡大する以前のように活動ができているか。



【参照】第7次幕別町生涯学習中期計画アンケート（18歳以上）の概要

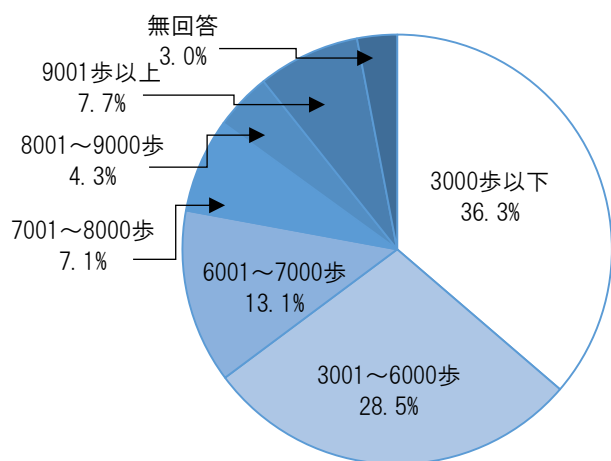
調査時期	2023年10月11日～10月24日
抽出方法	4地区（幕別・札内・南幕別・忠類）に分けて、各地区の人口・性別・年代の人数割合に相応した人数を無作為に抽出
調査人数	766人 ※前回796人
回収人数	263人（回収率34.3%） ※前回306人（回収率38.4%）

町が20歳から79歳までの方を対象に行った「健康づくりアンケート（2023）」で、1日に歩く歩数は、3,000歩以下が31.3%、3001～6000歩が33.7%であり、厚生労働省が行った「国民健康・栄養調査（2019）」における平均6313歩と比べると少ない状況にあります。

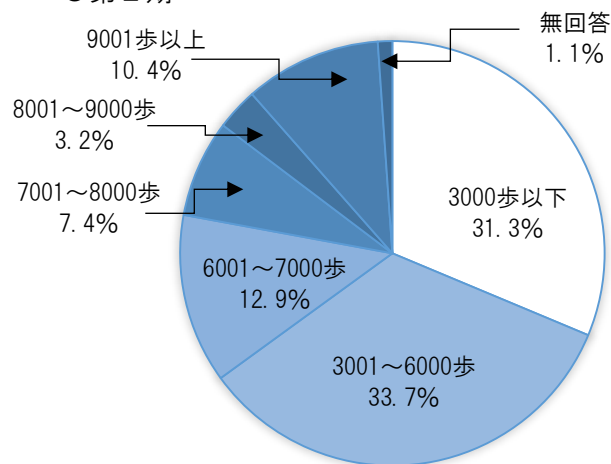
また、コロナ禍の中、習慣としていた運動を控えていた人の割合は11.8%であり、控えていた人の中で、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、運動習慣を再開した人の割合は62.8%でした。

■ 1日に歩く歩数

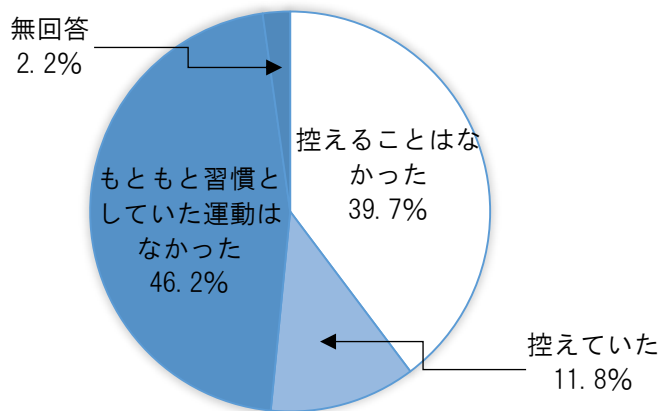
○第1期



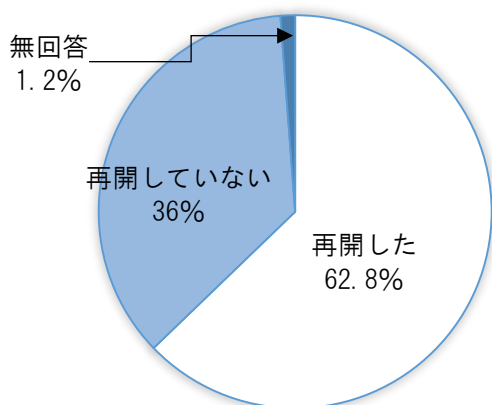
○第2期



■ コロナ禍の中、習慣としていた運動を控えることがありましたか。



■ （「運動を控えていた」と回答した方のみ）新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、運動習慣は再開しましたか。



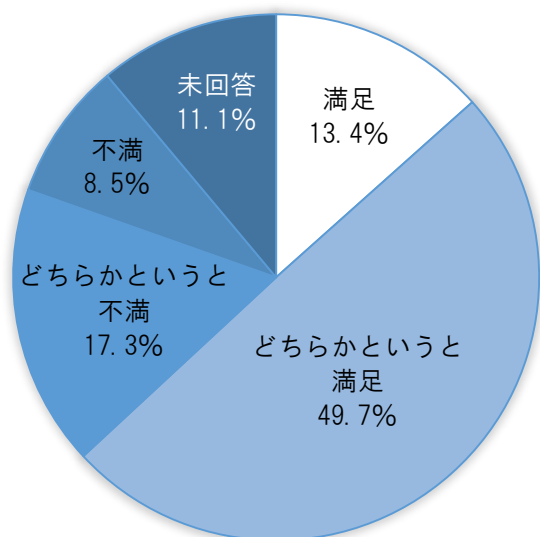
【参照】健康づくりアンケートの概要

調査時期	2023年10月2日～10月18日
抽出方法	4地区（幕別・札内・南幕別・忠類）に分けて、各地区の人口・性別・年代の人数割合に相応した人数を無作為に抽出
調査人数	1,989人 ※前回2,000人
回収人数	728人（回収率36.6%） ※844人（回収率42.2%）

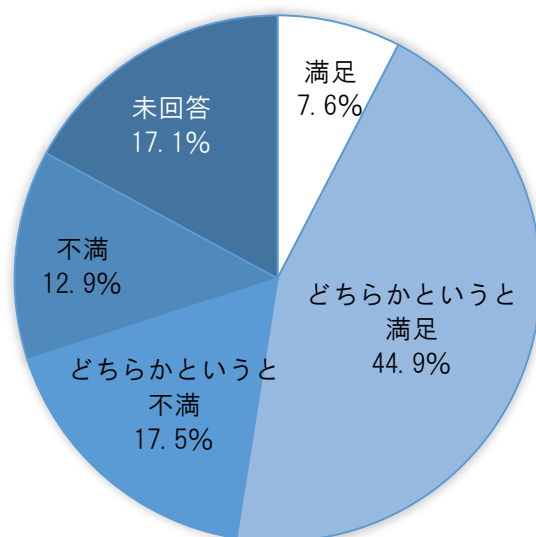
町教育委員会が行った「第7次幕別町生涯学習中期計画アンケート（2023）」で、町内のスポーツ環境の満足度は、「満足」または「どちらかという満足」と回答している方が52.5%となっていますが、「どちらかという不満」または「不満」と回答している方が30.4%となっており、不満の理由として、「情報が足りない」、「時間が合わない」、「参加したい講座やイベントが少ない」と回答されています。

■ 町内のスポーツ環境の満足度

○第1期



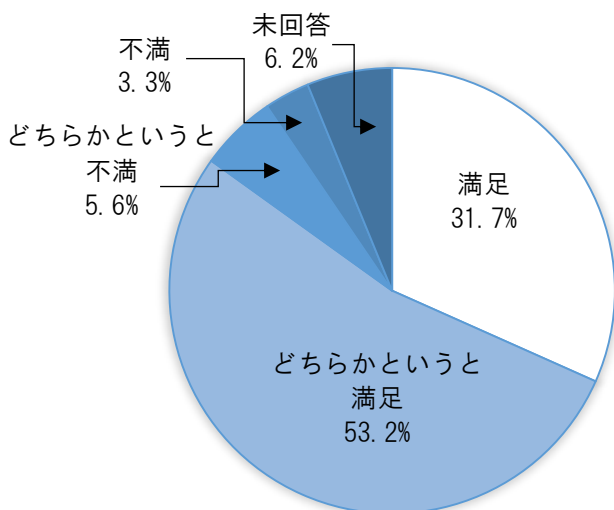
○第2期



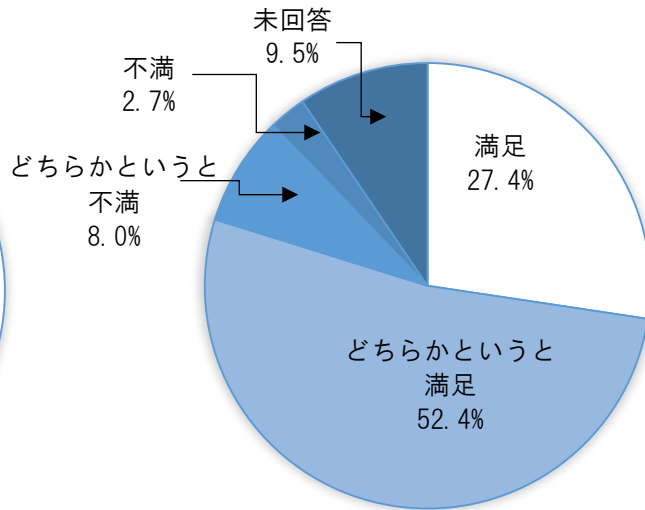
町内のスポーツ選手の応援活動に対する満足度は、「満足」または「どちらかという満足」と回答している方が79.8%となっていますが、「どちらかという不満」または「不満」と回答している方が10.7%となっており、不満の理由として、「応援活動内容がわからない」、「情報が入ってこない」、「オリンピックだけでなく、普段の活動がわからない」と回答されています。

■ 町内のスポーツ選手の応援活動に対する満足度

○第1期



○第2期



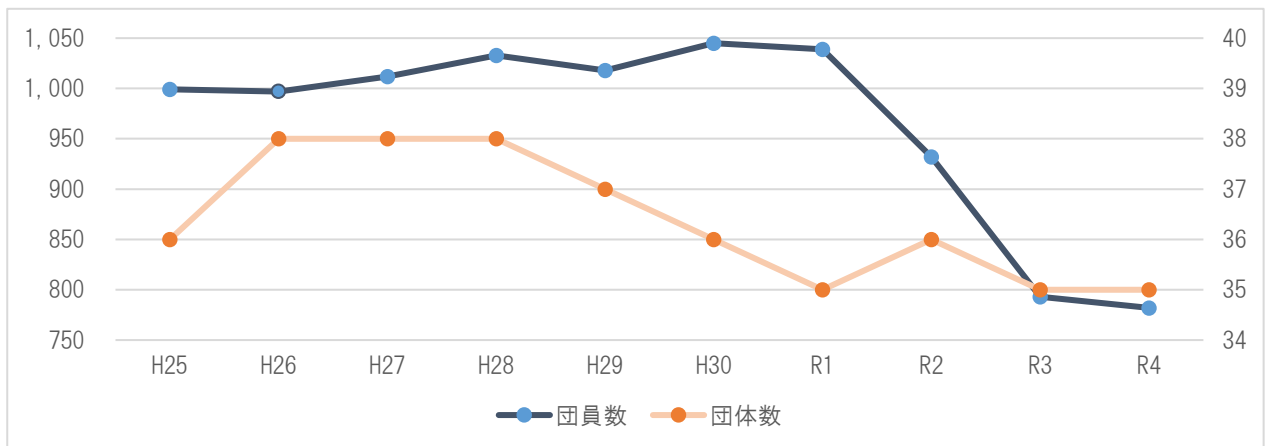
2 スポーツ関係団体の状況

(1) スポーツ少年団の状況

スポーツ少年団の団員数は、近年、減少傾向にあり、団体数は、小学校区単位におけるスポーツ少年団のチームを構成することが難しく、複数校構成の混合チームやクラブチームとなってきており、平成28年度をピークに減少傾向にあります。

■ スポーツ少年団登録団員数と団体数の推移（各年度末現在）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
団体数	36	38	38	38	37	36	35	36	35	35
団員数	999	997	1,012	1,033	1,018	1,045	1,039	932	793	782

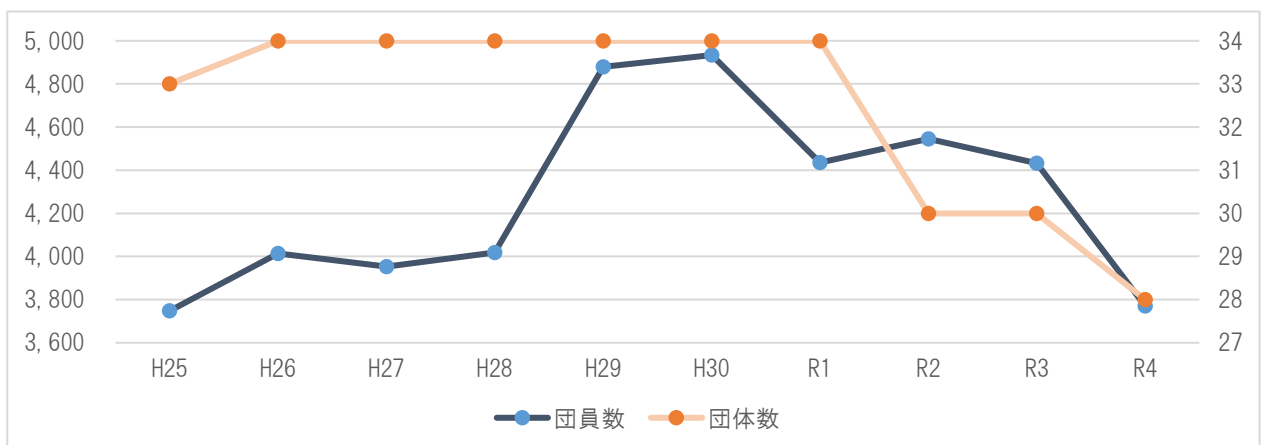


(2) 幕別町スポーツ協会の状況（※令和5年4月25日に幕別町体育連盟から名称変更となりました。）

幕別町スポーツ協会は、町民のスポーツの普及と振興、体力向上と健康増進を願い、昭和33年4月に設立しました。加盟団体数は、近年、減少傾向にあります。競技人数は、令和4年度に700人ほど減少しており、特に若年層の競技者が少なくなっている傾向にあります。

■ 幕別町スポーツ協会団体数と競技人数の推移（各年度末現在）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
団体数	33	34	34	34	34	34	34	30	30	28
人数	3,748	4,014	3,953	4,019	4,880	4,934	4,436	4,546	4,432	3,770



(3) スポーツ推進委員の状況

スポーツ推進委員は12人を委嘱し、地域スポーツ振興の推進役として、毎年、「ウォークラリーまくべつ」や「リフレッシュ教室」の開催、「まくべつマラソン大会」などのイベント協力を行っています。

(4) スポーツ合宿誘致実行委員会の状況

スポーツ合宿誘致実行委員会は、スポーツ合宿や大会を誘致し、交流人口の拡大、スポーツの振興及び地域の活性化を目指した活動を行っており、平成30年度から毎年「慶應義塾体育会野球部」の合宿誘致（令和2年度については新型コロナウイルス感染症拡大により中止）と、令和元年度は「車いすラグビー日本選手権予選リーグ」の大会誘致を行いました。

(5) 総合型地域スポーツクラブの状況

総合型地域スポーツクラブは、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、それぞれの志向やレベルに合わせて参加できる（多志向）という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

町内には、「特定非営利活動法人 幕別札内スポーツクラブ」と「一般社団法人 十勝総合型スポーツクラブ フーニ」の2クラブを有しており、町のスポーツ振興に大きく貢献しています。

3 スポーツ施設の状況

町内で利用可能なスポーツ施設等は次のとおりであり、各地区に様々なスポーツ施設があります。町発祥のスポーツであるパークゴルフ場は、町内で14コースあります。

農業者トレーニングセンター及び札内スポーツセンターは、令和元年度から指定管理者制度を導入し、民間事業者が施設の管理運営全般を行っており、サービスの充実、利用者の拡大に努めています。

また、民間スポーツ施設では、トランポリン施設やゴルフ場などがあります。

地区	施設名	内容
幕別	農業者トレーニングセンター	アリーナ、武道場、トレーニング室
	幕別運動公園	陸上競技場、野球場、ソフトボール場、多目的広場、屋外スケートリンク場(冬季)、アーチェリー場、テニスコート、ゲートボール場、パークゴルフ場(1コース)
	明野ヶ丘公園	スキー場(冬季)、マウンテンバイクコース、パークゴルフ場(1コース)
	その他施設	屋内プール(1箇所)、屋内ゲートボール場(1箇所)、屋外ゲートボール場(1箇所)、パークゴルフ場(2コース)
札内	札内スポーツセンター	アリーナ、武道場、トレーニング室、テニスコート
	依田公園	野球場、テニスコート、アーチェリー場、パークゴルフ場(2コース)
	札内川河川緑地公園	野球場、ソフトボール場、テニスコート、バスケットコート、サッカー場、ラグビー場、パークゴルフ場(1コース)
	スマイルパーク	パークゴルフ場(1コース)
	その他施設	屋外スケートリンク(冬季)、屋内プール(2箇所)、屋内ゲートボール場(1箇所)、パークゴルフ場(1コース)
糠内	糠内公園	パークゴルフ場(1コース)
	糠内町民プール	屋内プール(1箇所)
忠類	忠類体育館	アリーナ
	忠類野球場	野球場
	ナウマン公園	パークゴルフ場(2コース)
	白銀台スキー場	スキー場(冬季)
	その他施設	テニスコート(1箇所)、屋外ゲートボール場(1箇所)、屋内プール(1箇所)
民間施設		トランポリン常設施設(1箇所)、ゴルフ場(2箇所)、パークゴルフ場(2コース)

第3章 計画の体系

1 基本理念

スポーツは、幸福で豊かな生活を営むために重要なものであり、健康寿命の延伸や体力向上、介護予防、生活習慣病予防に寄与します。すでにスポーツをすることの楽しさを享受できている町民のみならず、スポーツをしていない、スポーツに無関心な町民も、スポーツを「見る」・「応援する」・「する」・「支える」という視点で、積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、人生が豊かになるよう推進していきます。

また、これまで町内から多数のオリンピック選手を輩出していることやスポーツを行う上で自然環境や社会環境において適した地であることから、「オリンピックの町・幕別町」として町内外に発信していきます。

このことを踏まえ、幕別町の教育目標である「郷土を愛し、自ら学び、心豊かに生きる人」の育成を基本として、子どもから高齢者までのライフステージに応じたスポーツの推進など、これまで推進してきた取組は、本町のスポーツ推進の根幹となるものとして、引き続き、推進・充実を目指していきます。

2 基本目標

本計画の基本理念を実現するため、次の5つの基本目標を掲げます。

基本目標1 スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気醸成しよう！

基本目標2 スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！

基本目標3 社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！

基本目標4 子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！

基本目標5 「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！

3 SDGsを踏まえた計画の推進

SDGs（エス・ディ・ジーズ）は、持続できるというSustainable（サステイナブル）のS、開発というDevelopment（ディベロップメント）のD、目標であるGoalの複数形Goals（ゴールズ）のGとsの略語であり、日本語訳として、「持続可能な開発目標」とされています。


このSDGsは、2015年9月の国連で採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年までの15年間で達成するために掲げた目標であり、環境、経済、社会それぞれの側面を統合的に向上させるため、17の目標と169のターゲットから構成されています。












この目標の達成に向け、政府だけでなく、自治体や企業、諸団体、町民にも役割があり、それぞれが協力・連携しあうことが求められています。

当計画がSDGsの推進につながるものと考え、SDGsの視点を取り入れ、基本目標の達成に向けた各種施策を推進します。



4 計画の体系

基本目標	施策の方向	関連するSDGs	
<p>1 スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気を醸成しよう！</p>	<p>(1) 各種メディアによる情報発信の強化 (2) 町内出身アスリートの応援における町全体での機運醸成 (3) スポーツ合宿や大会の誘致とスポーツ交流人口の拡大</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに  ≪教育≫</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう  ≪パートナーシップ≫</p>	<p>8 働きがいも経済成長も  ≪経済成長・雇用≫</p>
<p>2 スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！</p>	<p>(1) スポーツ体験の充実 (2) 学校での体づくり活動の充実 (3) 様々な世代のスポーツ機会の充実と健康増進 (4) パークゴルフの普及 (5) パラスポーツの普及</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を  ≪健康な生活≫</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう  ≪不平等の是正≫</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに  ≪教育≫</p>
<p>3 社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！</p>	<p>(1) スポーツ団体の活性化 (2) スポーツ指導者やボランティアなどの人材育成 (3) スポーツ人材の働く環境づくり (4) スポーツ大会や用具、送迎などの保護者負担軽減</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに  ≪教育≫</p> <p>8 働きがいも経済成長も  ≪経済成長・雇用≫</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう  ≪ジェンダー平等≫</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう  ≪不平等の是正≫</p>

基本目標	施策の方向	関連するSDGs	
<p>4 子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！</p>	<p>(1) スポーツをしやすい環境づくり (2) 気軽にスポーツ施設を訪れる機会の創出 (3) スポーツに親しめる多様な環境整備</p>	<div data-bbox="1018 215 1219 412"> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  <p>《健康な生活》</p> </div> <div data-bbox="1018 456 1219 654"> <p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>《経済成長・雇用》</p> </div> <div data-bbox="1018 698 1219 896"> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  <p>《不平等の是正》</p> </div>	<div data-bbox="1295 215 1497 412"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>《教育》</p> </div> <div data-bbox="1295 456 1497 654"> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  <p>《インフラ》</p> </div> <div data-bbox="1295 698 1497 896"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>《安全な都市》</p> </div>
<p>5 「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！</p>	<p>(1) 応援大使を活用した宣伝 (2) スポーツを活用した地方創生 (3) 大学及び道内プロスポーツ団体との連携</p>	<div data-bbox="1018 1025 1219 1223"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>《教育》</p> </div> <div data-bbox="1018 1267 1219 1464"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>《安全な都市》</p> </div> <div data-bbox="1018 1509 1219 1706"> <p>17 パートナースhipで目標を達成しよう</p>  <p>《パートナーシップ》</p> </div>	<div data-bbox="1295 1025 1497 1223"> <p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>《経済成長・雇用》</p> </div> <div data-bbox="1295 1267 1497 1464"> <p>12 つくる責任つかう責任</p>  <p>《持続可能な生産消費》</p> </div>

第4章 基本計画

1 スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気を醸成しよう！

〈現状と課題〉

- ・ 町内出身アスリートは、オリンピック出場やプロスポーツなどいろいろな分野で活躍しています。しかし、生涯学習中期計画のアンケート結果から、アスリートの情報が町民へなかなか伝わっていないことがわかり、また、町内出身のアスリートの認知度がそれほど高くないと同時に、町内出身のアスリートが多数いることを町の強みだと感じている人も少ないことがわかりました。町全体が身内意識を持ち、これまで以上に応援する態勢を整える必要があります。
- ・ 自然環境や社会環境においてスポーツ合宿や大会に適した地であるため、近年、スポーツ合宿や大会の受入が増えていますが、町全体となった更なる受入体勢や盛り上がりが必要であることから、官民連携としたネットワークの強化が必要となります。

〈目標（KPI）設定〉

項目	現在	目標値
町の応援活動の満足度 ＊生涯学習中期計画アンケート	79.8% (R5)	85.0% (R10)
スポーツ合宿・大会の受入者数	208人 (R4)	200人 (R10)

〈施策の方向〉

(1) 各種メディアによる情報発信の強化

- ・ 町民が全道や全国で優秀な成績を収めた町内選手や町内出身のアスリートの情報を積極的に見たり、聞いたり、触れたりできるよう、町ホームページやSNSでの紹介に加え広報紙で特集する機会を設けるなど、各種媒体により情報を提供します。

(2) 町内出身アスリートの応援における町全体での機運醸成

- ・ 町全体が町内出身アスリートの応援機運を高めるため、町全体での応援宣伝やSNSを活用した応援のほかパブリックビューイング等を通して、常に応援する雰囲気を作り出します。

(3) スポーツ合宿や大会の誘致とスポーツ交流人口の拡大

- ・ スポーツを行う環境が整っていることを発信しながら誘致を進めるとともに、官民連携として歓迎ムードの創出や地域に密着した交流活動等を通じて、スポーツ交流人口の拡大を図ります。

2 スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！

《現状と課題》

- ・ 少子化、共働きや核家族による家庭環境の影響に加え、スポーツ以外の興味や価値観の多様化により、子どもが体を動かす機会の減少を招いています。
- ・ 文化科学省が実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、質問紙調査の中で「運動が好き」、「(保健) 体育の授業が楽しい」と回答した割合は小・中学校の男子・女子ともに全国平均をほぼ上回り、「(保健) 体育の授業で目標を意識して学習することができている」と回答した割合も全国平均を上回っていることから、運動への興味の高さがうかがえる結果となっています。
- ・ スポーツをするきっかけには「楽しい」や「憧れ」を感じられることが重要であることから、オリンピック選手をはじめとしたアスリートと触れ合える機会を創出することで、その動機付けを行うことが必要です。
- ・ 成人期において、多くの人が心身ともに健康で活力ある生活を望んでおり、スポーツ・レクリエーションへの関心がますます高まっています。日頃からスポーツを「する」きっかけをつくるとともに、継続してスポーツをする習慣を身に付けることも重要です。
- ・ パークゴルフは、コミュニティスポーツとして海外にも普及していますが、日本パークゴルフ協会や様々な分野と連携しながら、競技世代の裾野を広げることが必要です。
- ・ 障がい者が自主的かつ積極的にスポーツを行うとともに、年齢や性別、障がい等を問わず、町民がパラスポーツに関心を示し、参画することができる環境整備が必要です。

《目標 (KPI) 設定》

項目	現在	目標値
成人のスポーツ実施率 *生涯学習中期計画アンケート	29.7% (R5)	32.0% (R10)
子どものスポーツ実施率 *生涯学習中期計画アンケート	56.8% (R5)	64.0% (R10)

《施策の方向》

(1) スポーツ体験の充実

- ・ 子どもが基礎的な運動を習得することで、スポーツの楽しさや喜びを感じ、子どもの心身の発育や体力の向上につなげます。
- ・ スポーツ団体と協議し、子どもが気軽に参加できる体験入会などのスポーツをするきっかけとなる取組を検討します。
- ・ 町内出身アスリートと直接触れ合う機会をつくり、様々なスポーツの体験、スポーツ技術の向上を図ります。

(2) 学校での体づくり活動の充実

- ・ 児童生徒に体を動かす喜びを実感させ、積極的に運動に取り組む意欲や態度を育てるため、学校の休み時間等を利用し、遊びを通してスポーツに親しむ機会を増やすなど体力や運動能力の向上に努めます。

- ・ 町内出身のアスリートが学校に訪問し、その選手が活躍している映像の放送やスポーツ等を通じて選手との交流を図り、スポーツに興味を持つ機会を創ります。
- (3) 様々な世代のスポーツ機会の充実と健康増進
- ・ ウォーキング、ストレッチ、筋力アップ、ラジオ体操など、家庭内においても取り組める運動や、スポーツ施設の利用促進を図るとともに、ライフスタイルに合わせて継続できる運動を目指し、効果的な方法を普及します。
 - ・ ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度を上げるため、広報紙やホームページ等で周知を図り、意識して体を動かすことの必要性について働きかけます。
- (4) パークゴルフの普及
- ・ パークゴルフ発祥の地として、パークゴルフの情報を国内外へ発信するよう努めるとともに、三世代が交流することができるパークゴルフを気軽に親しめるような環境づくりを進め、若者を中心とした交流人口の増加を図ります。
- (5) パラスポーツの普及
- ・ パラスポーツ体験イベントを通じて、障がいのある人と障がいのない人が一緒にスポーツを楽しむ場を作るなど、パラスポーツに対する理解促進を図るとともに、共生社会の実現につながるよう努めていきます。
 - ・ スポーツ施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入等を含め、障がい者を含め誰もが利用しやすい施設の充実を図ります。

3 社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！

《現状と課題》

- ・ スポーツ振興を担う幕別町スポーツ協会は、若年層の加入が少なく、世代交代が進まない団体が見受けられることから、今後、活動の停滞によるスポーツ振興への影響が懸念されます。
- ・ 少子化により、学校単位でスポーツ少年団や部活動のチームを構成することが難しく、複数校構成の混合チームやクラブチームなどが増加傾向にあります。また、保護者が送迎や金銭面などの負担を理由に、スポーツ少年団や部活動に入らない場合があります。

さらに、公立中学校等の運動部活動については、学校単位から地域単位への移行が検討されています。

今後、子どもを取り巻く環境を注視しながら、幼少期からスポーツに親しむことの重要性の理解と同時に、将来的にわたり、スポーツに継続して親しむことができる機会を確保していくことが重要です。

- ・ 運動部活動において、「生徒のニーズに合う運動部活動が学校に存在しない」、「不慣れな指導であるために専門性の高い指導ができない」といった課題があります。
- ・ スポーツ指導者は、技術指導だけでなく、スポーツの楽しさや面白さを上手に伝えることがスポーツの推進には不可欠であるため、スポーツ指導者の育成やハラスメントの防止にも取り組むことが重要です。
- ・ クラブ・団体の運営や指導といった日常的に行われる活動や、スポーツ大会やイベントの開催といった多種多様なニーズに対応するため、スポーツに関わる活動を支えるスポーツボランティアの育成が求められています。
- ・ 北海道幕別清陵高等学校と総合型地域スポーツクラブとの連携により、高校生の活躍の場を創出しており、将来のスポーツに関わる若手人材の発掘・育成が期待されます。また、スポーツ環境をより豊かにするため、町内出身のアスリートの経験が町内で活かされる環境づくりも必要です。

《目標（KPI）設定》

項目	現在	目標値
幕別町スポーツ協会加盟競技人数（人口割合）	14.6%（R4）	19.6%（R10）
スポーツ少年団登録団員人数（小学生割合）	57.2%（R4）	62.2%（R10）

《施策の方向》

(1) スポーツ団体の活性化

- ・ 町民がスポーツの理解と関心を深め、積極的にスポーツをする意欲を高めるとともに、関係団体で連携したイベントなどを展開し、スポーツ団体の活性化が図られるよう引き続き支援していきます。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの特性を有効的に高めるために、関係団体との連携強化を図り、単体のスポーツ団体から複合型スポーツ団体へ発展していくよう支援していきます。

(2) スポーツ指導者やボランティアなどの人材育成

- ・ スポーツ団体と連携し、研修会や講習会などを通じて、スポーツ活動を「支える」立場である指導者の育成やスポーツ指導の資質向上を図る機会を充実します。
- ・ 公立中学校等の運動部活動の地域移行に向け、指導者・運営者や、総合型地域スポーツクラブを含め多種多様な活動の場の確保に努めます。
- ・ スポーツボランティアを育成するために、スポーツへの関わり方を学ぶ機会を創るとともに、活動内容の情報収集と情報発信をしていきます。

(3) スポーツ人材の働く環境づくり

- ・ 総合型地域スポーツクラブを核として、引き続き北海道幕別清陵高等学校と連携し、将来にわたりスポーツに関わることができる若い人材を育成するとともに、引退後のアスリートを雇用し、スポーツ指導や指導者の育成を行います。
- ・ 専門的な知識とトレーニング技術指導を持ったパーソナルトレーナー等の有資格者の採用を検討し、多種多様なニーズにこたえる指導体制を構築します。

(4) スポーツ大会や用具、送迎などの保護者負担軽減

- ・ 子どもが思う存分スポーツに取り組める環境を整えるため、全道大会や全国大会等に参加した者に宿泊費や交通費を助成することにより、保護者の経済負担への支援を行うとともに、送迎や競技用具購入などの保護者負担が軽減できるよう、地域と一緒に協力できる体制づくりを検討します。

4 子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！

《現状と課題》

- ・ 運動と健康の意識は高い一方、時間がなく、継続的にスポーツをするといった行動にはなかなか結び付いていないため、健康を促進するための事業効果が低調の状況にあります。
- ・ 農業者トレーニングセンターと札幌スポーツセンターにおいて、平成31年4月から指定管理者制度を導入し、トレーニング機器の指導担当者の配置や町民のニーズに応えた健康講座の新設などにより、新規利用者を増やす取組を行っており利用者については年々増えています。気軽にスポーツをする環境が整ってきていますが、一度も行ったことがない町民もいることから、スポーツ施設や公園等において、気軽にスポーツができる場所や情報提供が必要です。
- ・ 幅広い世代の方が気軽にスポーツ・レクリエーションの場として公園を利用されていることから、今後も親しみが持て多くの方に利用してもらえる仕組みづくりが求められています。
- ・ スポーツ施設は、日常的に各種競技の練習会場や体力づくりの活動場所として使用されていますが、供用開始から30年以上経過した施設が多いことから、設備や備品の経年劣化が進み、計画的な整備が求められています。

《目標（KPI）設定》

項目	現在	目標値
農業者トレーニングセンター利用人数	32,966人 (R4)	35,000人 (R10)
札幌スポーツセンター利用人数	186,362人 (R4)	120,000人 (R10)
スポーツ環境の満足度 *生涯学習中期計画アンケート	52.5% (R5)	58.0% (R10)

《施策の方向》

(1) スポーツをしやすい環境づくり

- ・ 仕事等で忙しく、スポーツをする時間が少ないビジネスパーソンが多いことから、企業において、積極的にスポーツを通じた健康確保を促すため、働き方改革の啓発や休憩時間等にスポーツをしやすい環境づくりを働きかけます。
- ・ スポーツをしない人が気軽にスポーツを継続的に取り組めるよう、インセンティブ（成果報酬）を提供する制度をより効果的に活用できる手法を検討します。
- ・ リモートを活用した活動といった、双方向的な交流を生むスポーツの手法を検討します。

(2) 気軽にスポーツ施設を訪れる機会の創出

- ・ スポーツへの興味や関心を高めるための雑誌や本の展示、スポーツ番組の放映、町にゆかりのあるアスリートの紹介を行い、気軽にスポーツ施設を訪ねることができるような演出を行います。
- ・ 気軽にスポーツができる場所、スポーツ施設の設備や利用方法などがわかりやすく紹介できる情報を積極的に発信していきます。また、スポーツ施設の一般開放について、利用団体などと協議を行い、多くの町民がスポーツ施設を利用できるような工夫を行います。

(3) スポーツに親しめる多様な環境整備

- ・ 町民が身近な場所でスポーツができるよう、道路や遊歩道、広場や公園などの既存資源を生かし、町民参加を基本として、スポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。町ホームページで公園の健康遊具や利用方法を紹介する等の取組を検討します。
- ・ 将来の人口動態を踏まえて、スポーツ施設における長寿命化計画を策定し、計画的な整備を行うとともに、地域や使用団体が愛着を持って、維持していく手法を検討します。

5 「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！

《現状と課題》

- ・ 「オリンピックの町」としての魅力を町内外に発信するために、町内出身のオリンピックやアスリートを応援大使とする事業、町内出身のオリンピックゆかりの品を展示する事業を展開してきましたが、今後も更なる魅力を発信することが必要です。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大前においては「産業まつり」と総合型地域スポーツクラブによるイベントを同時開催しているほか、令和元年は地元密着でJリーグを目指す北海道十勝スカイアースの選手が「産業まつり」に参加協力するなどスポーツを取り込んだ観光イベントが徐々に定着していました。

新型コロナウイルス感染症拡大後において、中止となっていたイベント等が再開され、スポーツを取り込んだ観光イベントについて、関係団体と協力しての取組が必要です。
- ・ 豊富な観光資源と自然環境や社会環境を生かして、パークゴルフやサイクリングなどの体験型スポーツツーリズムの取組により、町へ訪れる方が徐々に増えてきています。
- ・ 北海道科学大学、日本体育大学との連携協定を締結していることから、町が抱える様々な課題に対して、大学が持つ専門的な知見や学生の視点を生かした解決策や事業展開が期待されます。
- ・ プロスポーツ団体の理念に地域貢献を掲げていることが多いことから、プロスポーツ団体が持つノウハウやネームバリューを生かして、スポーツ振興や町の活性化など様々な課題解決をしていくことが今後求められます。

《目標（KPI）設定》

項目	現在	目標値
オリンピックたちからのメッセージ 「マチアルキ」視聴回数	216回（R5） *10月末現在	300回（R10）
幕別町応援大使ふれあいイベント参加人数	111人（R4）	200人（R10）

《施策の方向》

(1) 応援大使を活用した宣伝

- ・ 今後も応援大使を活用した町の魅力発信を継続するとともに、様々な町の特徴を活用して、町の認知度を向上するための手法を検討します。

(2) スポーツを活用した地方創生

- ・ 日本体育大学との連携により作成した、アスリートの育成に必要な栄養バランスがとれ、町の特産品を使用したジュニアアスリート向けレシピを広くPRし、これから夢をもって羽ばたこうとする皆さんを応援します。
- ・ 町の特徴である「農作物」、「食」、「スポーツ」、「エンターテイメント」を融合したイベントを開催し、子どもから高齢者までをターゲットとした集客や、スポーツに関心がない方も無意識に関わることができる取組を推進していきます。
- ・ 今後も体験型スポーツツーリズムを発展させていくために、スポーツ用具等の環境整備や情報発信の強化を行うとともに、旅行会社や近隣自治体と連携していきます。

(3) 大学及び道内プロスポーツ団体との連携

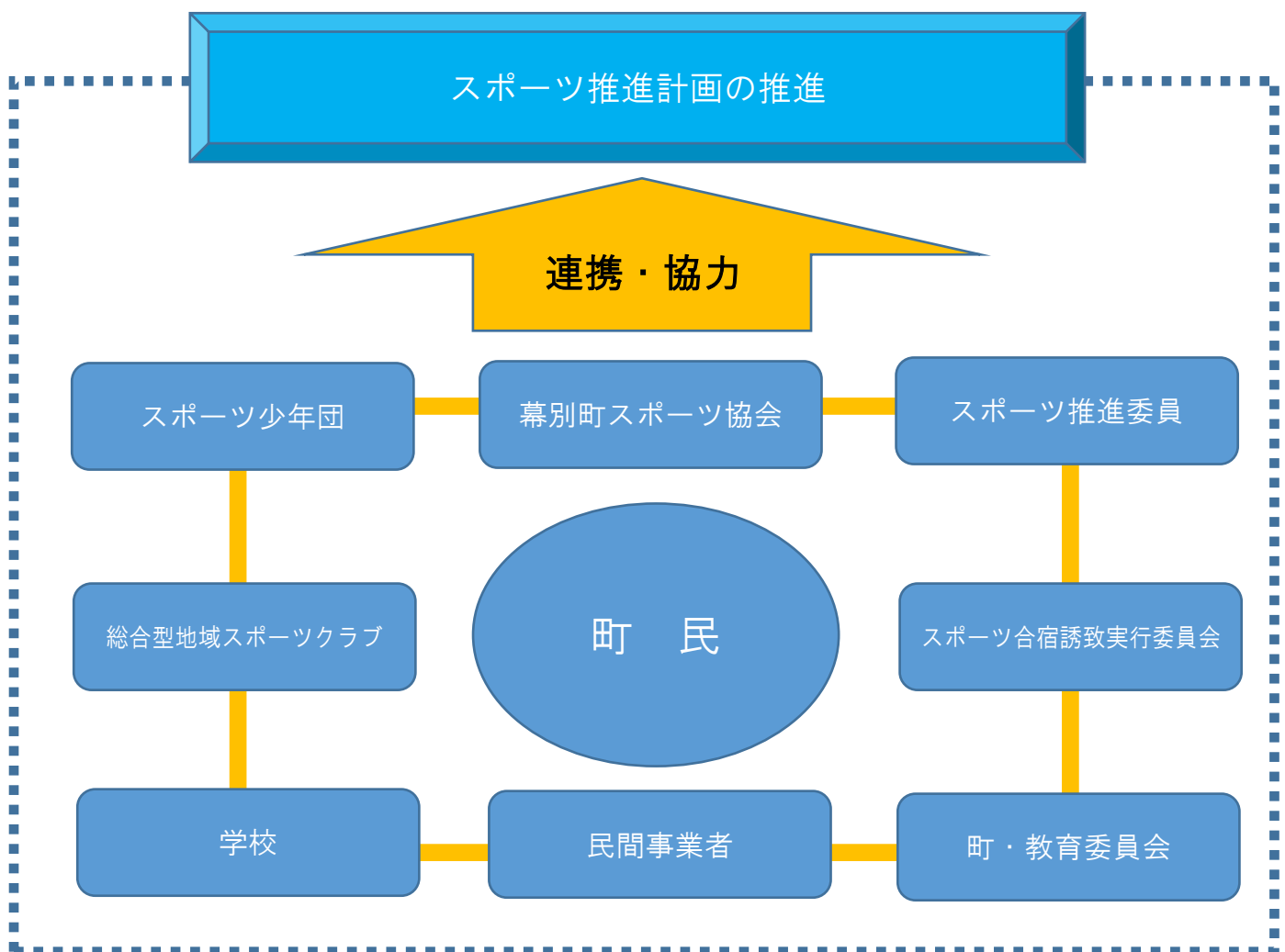
- ・ 北海道科学大学や日本体育大学との連携により、スポーツだけでなく、幼児教育や保健医療など様々な分野における研修会や講座の開催、北海道幕別清陵高等学校と連携した事業を検討します。また、大学が持つ専門的な知見を生かした町内出身のオリンピック選手輩出に係る優位性や環境の分析研究結果に基づき、更なるスポーツの推進に役立てるとともに、町の魅力発信と愛着心につながる取組を行うことで、持続可能なまちづくりを推進していきます。
- ・ 道内プロスポーツ団体と連携協定締結の検討を進めると同時に、人材育成やスポーツを核とした健康、教育、観光など地域活性化に向けた事業等を展開します。

第5章 計画の推進に当たって

1 計画の推進に当たって

計画を推進していくためには、町民、スポーツ少年団、幕別町スポーツ協会、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ合宿誘致実行委員会、学校、民間事業者、町・町教育委員会が一体となり、互いに連携・協力をしながらも、それぞれの担う役割に対して主体的にスポーツ推進に取り組み、町民のだれもが「みる」、「応援する」、「する」、「支える」スポーツを楽しみ、親しめる環境づくりが望まれます。

《イメージ図》



2 主な関係団体の役割

(1) スポーツ少年団

スポーツ少年団においては、子どもたちへスポーツを通じた健全育成の役割が期待されるとともに、指導者の意識と専門的な知識、技術や資質を高めていくことが望まれます。

(2) 幕別町スポーツ協会

幕別町スポーツ協会加盟団体をはじめ、スポーツ推進委員や関係団体と連携を図り、時代の変化や町民のニーズに即したスポーツを推進するとともに、町民の体力向上と健康増進、スポーツの情報収集や情報提供を通じて、生涯にわたって明るく豊かな生活の形成に寄与していくことが望まれます。

(3) スポーツ推進委員

地域のスポーツ推進のコーディネーターとして、その職責を達成できる知識と技術を身に付け、スポーツ推進のための連絡調整やスポーツの実技指導を通じて、町民が自発的にスポーツを行うことができるよう幅広い活動をするのが望まれます。

(4) 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブが地域で抱える様々な課題にこたえるため、地域住民やスポーツ団体等と連携して、スポーツを通じた健康増進、子育て支援、学校への支援などを引き続き行い、「社会的な仕組」として定着していくことが期待されます。

(5) スポーツ合宿誘致実行委員会

官民連携により、スポーツを通じて地域に密着した交流活動等を行い、スポーツ交流人口の拡大とスポーツによる町の活性化が図られることを期待されます。

(6) 学校

体育の授業や運動部活動などの学校体育における子どもたちの体力向上や健全な育成、そして大人になってもスポーツを楽しむきっかけづくりが期待されます。

(7) 民間事業者

指定管理者制度による施設運営や民間事業者との連携によるスポーツ推進に向けた施策の展開など、民間活力によるノウハウの提供が期待されます。

(8) 町・町教育委員会

町民のスポーツ活動をより充実したものにするため、スポーツの枠に捉われることなく、幅広い機関や庁内関係部署と連携を図ります。

また、基本理念を実現しスポーツ活動をより充実するために、ソフトとハードの両面から環境の整備を図りつつ、町民の自発的なスポーツの推進に取り組みます。



第2期幕別町スポーツ推進計画
(2024年度～2028年度)

令和6年3月発行

発行者 幕別町教育委員会

〒089-0604 北海道中川郡幕別町錦町98番地

TEL 0155 (54) 2006

FAX 0155 (54) 4714

E-mail shogaigakusyuka@town.makubetsu.lg.jp